



# こども映画教室

@ひろさき 2014

## みんなの 感想文集



「こども映画教室」について	…	01
特別講師・横浜聡子監督紹介	…	02
『ジャーマン+雨』を見たみんなの感想文	…	03
『こども映画教室@ひろさき 2014』に参加してみて... 3日かんのみんなの感想文	…	17
— 赤チーム「イタズラレンジャーV」	…	18
— 青チーム「魔法使いのかくしごと」	…	22
— 黄チーム「みんなのひみつ ～林家バージョン～」	…	26
— 緑チーム「悪魔の呪いの謎」	…	30
— 横浜監督そしてサポートスタッフの感想文	…	34
— 保護者の方から寄せられたメッセージ	…	42
— こども映画教室 代表メッセージ	…	43
— あおもり映像芸術振興プロジェクト実行委員会 会長メッセージ	…	45
フォトアルバム	…	46
クレジット		



## 「こども映画教室」とは？

「こども映画教室」は、映画の仕組みを分かりやすく体験するワークショップや、さまざまな名画の鑑賞などを通じ、次世代の文化を担う想像力豊かな子どもたちの育成をはかっているもので、2004年に金沢で始まりました（金沢コミュニティシネマ等主催）。子どもたちは、正解のない映画づくりや映画鑑賞後のお話会などを通じて、自分とは違う価値観を知ったり、友だちとことん話し合ったり、協力して何かを作り上げる体験をします。このことは、子どもたちの想像・創造性を引き出し、コミュニケーション力を高め、自由な発想を生み出します。そして、成長し変化を遂げる子どもの姿を真剣に見つめるうちに、大人たちもまた感化され、変化していきます。この活動をぜひ他の地域の子どもたちに届けたい、いずれは公立小学校の授業で行いたいという夢を描き、2013年には任意団体「こども映画教室」を設立しました。

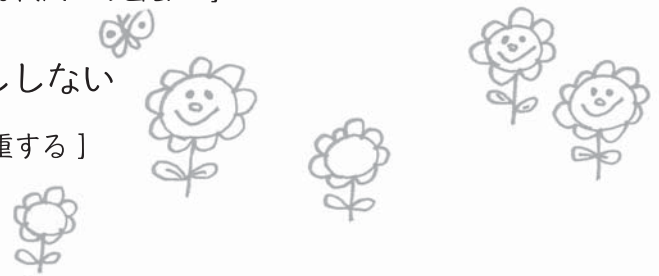
## 「こども映画教室」が大切にしていることは？

子どもと一流のアーティスト・映画人が会うこと

【子どもにとっての非日常／真剣な大人との出会い】

大人は手出し口出ししない

【子どもの自主性を尊重する】



## 「こども映画教室@ひろさき2014」について

青森県の子どもたち・若者たちに芸術文化、特に映画などの映像芸術への関心と活動意欲をよりもってもらおうと、「あおもり映像フェスティバル」と題して、映画の上映会・体験ワークショップの機会を充実させ、制作活動を応援するプロジェクトを本年度(2014年度)から行っています。

そのプロジェクトのひとつとして、金沢を中心に開催している「こども映画教室」の取り組みを青森県内で開催し、県内の小学生に、一流の講師の指導のもと、撮影や音声、編集など短編映画の制作体験できるワークショップを行うこととしました。

このプロジェクトが、映像芸術だけではなく、芸術文化全体の活性化につながり、未来を担う子ども・若者一人ひとりがふるさと青森を好きになって、豊かな発想力や創造力で新しい文化をつくっていき、活躍してくれればと思います、活動しています。

2014年7月25日(金)・26日(土)・27日(日) @ 弘前市 緑の相談所

日程表 7月25日(金) おはなしづくり／撮影テスト／撮影

7月26日(土) 撮影

7月27日(日) 撮影／編集／上映会のチラシ&ポスターづくり／上映会(弘前中央高校・講堂)



## 特別講師

# 横浜聡子 (よこはま・さとこ) 監督 | はまちゃん |

## はじめに

青森県庁の森田さんからお声がけがあり、「こども映画教室@ひろさき2014」の講師をやらせて頂くことになった。

いつだったか「子育てに勝るクリエイティブな仕事はない」と現役子育て中の友人が言っていた。それはもっともなんだろうし、頭では何となく理解できるが出産も子育てもしたことのない自分にとっていまいち実感の伴わない言葉だった。

「じゃあ映画って何なんだろう。なんで映画作ってるんだろう」と考えずにいられなかった。そこで私は、映画を見て感動した記憶を掘り起こしてみた。映画に心を動かされた理由は、一生出会うことのないであろう、言葉も通じずおそらく価値観も違うであろう人たちが生きてる姿に、勇気もらったからだった。

「自分とちがう人間が確かにいる」ということは恐怖でなく勇気だった。そんな記憶があるからか私は自分が映画を作るときに、社会にチューニングをうまく合わせられない、というか合わせない、ノイズだらけのひとたちを主人公にするようになった。今小さい子どもたちが大きくなったときに、「生きる」ことに関して少しでも風通しがよい世の中になればいいなと思いながら、映画を作っている。(もちろんそれだけが映画をつくる理由ではないけれど)

風通しがいい状態ってというのは、自分の理解や知識の範疇以外のものがこの世に存在することをうまく感じられてる状態なんだろうと思う。どっかのおじさんに、「どんな映画を作りたいの?」と聞かれて「子どもの未来のための映画を作りたい」と言ったら、鼻で笑われて傷ついた。きれいごとなかもしれないが、あながち嘘ではなかったから、傷ついた。(確かに説明の足りないかなり雑な返答ではあったが)

直接毎日子どもと触れ合う「子育て」とか「教育」には到底かなわないだろうが映画で伝えられることは何かしらあるはずだと信じる。「映画ってなんなんだ? 映画ってどうやって作ったらいいんだ?」と、答えのさっぱりわからない私が人に、ましてや子どもに明確に教えられることなんてはっきりいって無いのですが上記のような思いがあり、このたびこども映画教室の講師をやらせて頂くことを決めました。

ーと、もっともらしいことを書きましたが、結局は「こども映画教室。なんだかすごく面白そう」と思ったのでお受けしただけでした。

青森県の子どもたち、一緒に映画で遊びましょう。

1978年、青森県生まれ。横浜の大学を卒業後、2002年に映画美術学校第6期フィクションコース初等科に入学。2004年、同高等科卒業。卒業制作の短編「ちえみちゃんとこっくんぱっちょ」が2006年第2回CO2オープンコンペ部門最優秀賞受賞。CO2からの助成金をもとに長編1作品目となる「ジャーマン+雨」を制作。翌2007年、同作で第3回CO2シネアスト大津市長賞を受賞。自主制作映画としては異例の全国劇場で公開された。同作にて2007年度日本映画監督協会新人賞を受賞。2008年、商業映画デビュー作となる「ウルトラミラクルラブストーリー」(主演: 松山ケンイチ、麻生久美子)を監督、2009年6月に全国公開。同年のトロント国際映画祭、バンクーバー国際映画他、多くの海外映画祭にて上映された。2011年には短編映画2作品「真夜中からとびうつれ」&「おばあちゃん女の子」が劇場公開された。2014年には弘前のりんご農家を舞台にした「りんごのうかの少女」(出演: 永瀬正敏、工藤夕貴)が公開。







@ひろさき2014

2014.7.25 (金) ~27 (日)

「ジャーマン+雨」を見た  
みんなの感想

あらかじめ、横浜聡子監督作品「ジャーマン+雨」をみてもらい、感想をかいてもらいました。

# みんながみた映画

## 「ジャーマン+雨」



監督：横浜聡子  
つくった年：2006年  
映画の長さ：71分

— あらすじ —

よし子が町にやって来た！

ゴリラ顔、強引、わがまま、天涯孤独。 一林よし子、16才。

ぼろい平屋にひとりで住んでいて、学校にも行かない。美人でもないし、人から愛されるキャラでももちろんない。他人からみれば不幸そのもの？どっこいよし子はうつむかない。

仕事は植木職人見習い。かっこいいドイツ人がいるのに、毎日“ゴリラーマン”とのしられ、棟梁には殴られる。どっこいよし子は今日も叫ぶ。

「アリンコども散れ！」

よし子の夢は歌手に成ること。歌はすべてがオリジナル。たて笛で作曲するよし子は、近所のガキども相手にたて笛教室を始める。生徒は3人。曲ネタは、まわりの人間たち一人一人のトラウマだ！

田舎町、ぼっとん便所、四葉のクローバー、女になりたい小学生、病院で眠るダンゴムシ、やり手の女子高生、汲み取り屋の変態オヤジ、本気のドッジボール、ドイツ人…。全てを突き抜けて、今日もよし子が町を駆け抜ける！

あのね、ジャーマン+あめをみたよ。

さいはやしさんがこわいとおもったよ。

でも、こどもたちがはやしさんのおりちに来て、

トをかいたときからなんぞやさしくなったのかな、

とおもいました。それと、なせじぶんからマンホールにとひ

んだのかう、しぎれた

なまえ  
名前 はかしたいせい

横浜かんとくへ

<感想>

私はこの作品を見て、家族の大切さを知りました。  
いつも家族にはわかまを言、ていつも自分が中心  
だと思っていました。でもこの作品を見て、家族はいな  
くてはいけないと思、そう思うと、家族にわかまは  
言えないと思、いました。

<質問>

横浜かんとくの家族の大切を知ったのは何の映画ですか!  
(知った時でもいいです)

なまえ  
名前 泉 まり夏



横浜監督へ

私は、「ジャーマン+雨」を自宅で見させていただきました。映像のとりかたなどが面白くて、71分間 あっという間でした。とくに、映画の後半で画面は真暗で、音声だけが流れているところが面白かったです。他にも、映像や音声の工夫がされていて、すごいなあと思いました。「ジャーマン+雨」を見て、「リンゴのうかの少女」も見たいと思いました。

最後に質問です。この映画をとるときに、気を付けたことは何ですか？

なまえ  
名前

神 菜結子

親見に育っても、もろっとなく、学校へも行かなく、まわりの人たちからは「ゴリラーマン」とよばれているが、強く、ゆらゆらと生きていく主人公のお子の日常生活が、えかがかかれていると思いました。すごくあたりまえの日常生活の様子が、ひとく、リアルな生活にも見え、不思議な気持ちになりました。

なまえ  
名前

金兼田 愛理

感想

- ・題にかんはんを使っていたのがおもしろかったです。
- ・終わり方が「しき」でした
- ・きもんに思ったこと
- ・音楽はどのようにして入れるのか
- ・文字はどのようにして入れるのか。

なまえ  
名前

葛西陽人

よこはまかんくさへ ぼくのなまえは、カ西修造です。  
この「か」を見て、ドラえもんのようなアニメのえいがだと思いました。

でも見ていて、ぼくのそごうとちがうえいがでした。

そこで、見ていて「どういふえいがなのかな」と思て気になりました。

した。おもしろかったでもなぜかという、よし子さんがドッチボ

ルが強くてびっくりしました。今ドッチボールのチームに入っている

ので、くんけんに見てしまいました。リコーダーの音もきれい

でした。さいごのまんホールの中におちてなんでもくいのか

なまえ  
名前

カ西修造

な本と思いました。でもおもしろかった

です。



横浜さんへ

こんにちは。古川花奈です。「ジャーマン十両」という面白い画は、ふしぎな戸所やおもしろい戸所など、いろいろとした戸所の楽しいえいがでした。わたしはえい画作りになっせしよっと思っ見にきました！お言葉を聞くと、横浜先生からテーマをもらって、自分たちで作っていくということでしたが、どんなテーマが、楽しみです！！どんなえい画になるかがたのしみです！！よろしくおねがひします！！

なまえ  
名前 古川 花奈 (にがあかな)

かんはるぞ

横浜さんへ

外国(ドイツ)の人の思いやりがとてもやさしかったです。先生と呼ばれていた人の言葉使いが小布かったのですが、横浜監督はどうゆう気持ちでこのえい画を作ったのですか。後一番大変だった所と楽しかった所があれば、教えてください。

なまえ  
名前 西村 みのり



横浜と子かんとくへ

わたしは松山 華花 います。  
かんとくに三つしつ問があります。  
一つ目は「どうしてえい画かんとくになた  
のか」です。

二つ目は「今どんなえい画を作ろう  
としているのか」です。

三つ目は「今までで一番大変だったこ  
とは何か」です。

私は「感動できる話や「友しょうの  
お話が大好きです。

私が初めて見に行、たのが3才の  
時で「ドラえもん」を見に行、たのですが  
えい画館の中が暗く、こわくて抜け出  
して出してしまい、しばらくえい画館  
の中へはいれませんでした。

今も少しだけ暗いところが好きです。  
えい画のことはよく分からないけれど

楽しみたいと思います。

そして、えい画のことをよく知りたい  
と思います。

よろしくおねがいします。

松山 華花 より

よ子はわかままに強引で自分勝手でした。でも、病院のお父さんに会いに行くところが感動しました。よ子がマイケルに歌った歌、とても感動しました。

一番、最後のお父さんとよ子がお話しているところは、生きているのか、死んでいるのか、分からなくてドキドキしました。

分からないところも多かったけど、子供もできてく（ハオネ）面白かったです。何回もくり返して、分かるまで見たいです。

Q. 質問

青森県のどこ出身ですか。

好きな映画、映画かんとは？

・何さいつの時に、映画を又ろうと思いましたが。

・どうして「ジャーマン+雨」というタイトルにしたのですか。

なまえ  
名前

小田桐諒

先生バカ丸出しの歌などには誰が作ったんですか？

・他に「エリカ」は何本あったんですか？

・かんたんのじいさんは何ですか？

・せりせきの悪い人でもかんたんの「まる」ですか？

なまえ  
名前 佐藤秋



「ジャーマン+雨」のかんそう

かいたんの所でうたうたがいろいろおもしろい  
ました。

さいこの所でお父さん(ダンゴムシ)が死んでいな  
くてよかったです。

横浜かんとうへ

ジャーマン+雨は、とてもおもしろかったです。これか  
らもおもしろいえいがを作ってください。

なまえ  
名前

小笠原 花枝

「ジャーマン+雨」を見て、◎○

わたしが思ったことは、○ ○ ○

なぜたか「最初から最後までおもしろかった  
です。

笑って見ていたらあ、というまに、おあ  
ってしまいました。いっもん

なまえ  
名前

太田 <sup>イラ</sup> 紗愛

・「ジャーマン+雨」の雨はゴリラーマンの気  
分なんですか。

・ジャーマンとは何ですか。



ジャーマン十雨を見て、主人公のゴリラ顔をした女の子、別名「ゴリラーマン」、しょう来歌手をゆめ見て、いろいろ歌を作っているところや子どもたちの先生をやっているところ、最後のところでマンホールに落ちたところなど、とてもおもしろいお話でした。

なまえ  
名前

坂本 勇希

この映画を見て思ったことは、林さんの言葉でした。「バカ」とか「〜じゃねーぞ」とか、女じゃなく、男の人が使う言葉がたくさんできて、びっくりしました。友だちや、ドイツの人がはがきをさあて見ようとする時、林さんは、おこって、映画を見ていたとき、とてもおどろきました。子どもたちに、笛(リコーダ)を考えているところは、すごいなあと思いました。そして、とちゅうで、近くにあるくまの、自分の足をうらめて、わたしは、なんでうらめたのか、とてもきになったし、自分だったら、絶対いこくまなんて、うちません。十番おどろいたのは、林さんいんから、マンホールにとびこんで、なんでとびこんだのか不思議に思いました。

なまえ  
名前

笹 陽日  
ささ ぼるひ

はじめまして。ぼくは5年生です。ぼくは、横浜監督の「<sup>マン</sup>雨」の作品が、時間が無くて見る事ができませんでした。なので、代わりに、「魔法のペン」の感想を書きます。魔法のペンは、こねてポロポロの母をどんどんなおしていく、というゆめなので、最後はおもしろいことになっていて、楽しかったです。あと、映画監督の仕事も知りたいです。

なまえ 対馬 奏人

こんにちは。わたしは、千里小学校5年生の山本舞です。今回初めて、横浜監督の映画を見ました。わたしは、主人公のよし子が色が飛び散っているような部屋へ行き、「みんないるよ」の声を聞くところが心に残りました。今まで見たことのない表現で、おどろきました。

わたしは、映画をつくるための時間や、日にどれくらい撮影をおのめかを知りたいです。また、脚本にも興味があるので、どれくらいでできるのかを知りたいと思います。それでは、子ども映画教室の3日間よろしくお願いします。

なまえ 山本 舞 ます。



おもしろかったです  
— ぼくは、タイムのまな  
におちたころです

なまえ さとうまな  
名前

☆ 横浜監督へ ☆

私は、「ジャーマン+雨」を不思議だなあと思いながら映画を見て  
ました。映画は、けこう見るのですが、こういう映画は初めてでした。  
上手に言えないけど、「自分」という感じでした。そして、とくどくな世界観  
でした。役者さんのそれぞれの性格・個性が出ているのがおもしろか  
たです。人それぞれにいろんな生き方があるんだなあと思いました。  
子供達がリコーダーで吹いた曲の題名もおもしろが、たし、リコーダーで吹  
いていた曲もなんだが変だなあ。と思いました。でも、がんばっているん  
だと思いました。トイレで、私も、幼稚園の時におばあちゃんの家で、こわい思  
いをしながら入ったのを、思い出しました。子供達の遊んでるシーンもみんなそれ  
ぞれちがう遊びをしていて、おもしろかったです。横浜監督は、他の監督と  
ちがった不思議な映画をつづっていてすごいです。そして、質問です。なぜ、映画  
の題名が「ジャーマン+雨」なのですか？

なまえ 清野 幸芽  
名前

せいの

ゆめ



おとこのこがすなのうえをはしている  
ところでいっしょにわらってしまいました。

なまえ  
名前 しげと ゆずは

しまくは、「ジャーマン+雨のこういうところか」すきです  
が、お話の冒頭の時道路の標しきの⊕を使っ  
て、題名出すのが、ユニークでおもしろかったです。あと、わがま  
までおくる林よし子さんの性格がおもしろいであっ  
る一面もあるけれど、友達思いなその人柄に心を打た  
れました。あと、お話のクライマックスの所で、ふんちおしこがま  
まが、たまっている所に、よし子さんが「死にたい時に死ねないやー  
ん」といっているおじさんにおかて、「見ろ！」と、いって、とびこ  
すかたが、おもしろかったです。

なまえ  
名前 高橋 正宗

おしえて！  
はまちゃん！！

質問コーナー（映画『ジャーマン+雨』感想文より）

Q. 横浜監督はどういう気持でこのえいがを作ったのですか。

A. 世の中のじょうしきとケンカしてやろうという気持ちで作りしました。

Q. なぜ、映画のタイトルが「ジャーマン+雨」なのですか？

A. 「ジャーマン」と「雨」、一見まったく共通点をもたないことばどうしを「+（プラス）」し出合わせることでふしぎな化学反応を起こし、新たな世界へ飛やくさせたかったのだとおもいます。みんなでやった、「いつ、どこで、だれが、なにをした」の組み合わせ遊びとちょっとにてますね。ちなみに「ジャーマン」は、ここでは「ドイツ人」という意味です。

Q. 「ジャーマン+雨」の雨はゴリラーマンの気分なんですか。

A. ゴリラーマンの血と涙なのでしょう。

Q. 先生バカ丸出しの歌などはだれが作ったのですか。

A. 「先生バカ丸出しの歌」は、こどもたちが休憩時間に遊びで笛を吹いていて、大人にはつくれない、とても面白いメロディだったので、映画の中でも同じメロディを吹いてもらいました。

Q. 林さんじしんから、マンホールにとびこんで、なんでとびこんだのか不思議に思いました。

A. 深くて暗いマンホールにとびこむなんて、ふつうの人なら怖くてできないけど、林さんにとって、マンホールは、「怖い」とか「暗い」とかではない、未知の世界だったから、じぶんでとびこんで、その世界がどんなものか確かめたかったのかな。

Q. 一番大変だった所と楽しかったところがあれば教えてください。

A. 大変だったところは、やっぱり林さんがマンホールの穴に落ちるところで、深さ2メートルの穴をスコップで掘ったスタッフと、一発勝負で穴にとびこんだ林さんが大変そうでした。みんなの心意気で、いいシーンをつくれて嬉しかったです。

Q. 他に映画は何本つくったのですか？

A. まだ5本です。

Q. 最初は林さんがこわいとおもったよ。でも、こどもたちが林さんのおうちにきて、ノートを書いたときからなんでやさしくなったのかな、と思いました。

A. いつもなにか（世界？）にたいして怒ってる林さん。ノートをかいて作った音楽は、林さんにとって、世界と自分をつなげるすばらしいもの。音楽をつくりながら、ちょっとずつ、世界のことをすきになろうとしているのかも。

Q. この映画をとるときに、気をつけたことはなんですか。

A. 怖がらずに思い切りやるんだ。失敗してもいいんだ。自由なんだ。と思いつけるよう気をつけました。

Q. 成績の悪い人でもかんとはできるんですか？

A. 成績はよくてもわるくてもかんとはできます！ただ、いろんな考えかたや見方を持っていたほうがいいので、いろんなこと（学校の勉強もふくむ）に興味を持ちつづけよう。

Q. 横浜監督の家族の大切を知ったのはなんの映画ですか（知った時でもいいです）

A. 東京で一人暮らしをはじめた18歳のときです。ひとりになって初めて、ひとりじゃなにもできないことに気づきました。

Q. 映画をつくるための時間や、1日にどれくらい撮影をするのか知りたいです。

A. 脚本→撮影→編集→完成まで、1年とか、2年、3年もかかることが多いです。撮影する時間は毎日ちがいますが、早いときは朝6時くらいにみんな待ち合わせして、遅いときは夜12時過ぎに帰ります。

Q. 青森県のどこ出身ですか。好きな映画、映画監督は？

A. 青森市出身です。好きな映画は、キアロスタミ監督の「友だちのうちはどこ？」という、イランという国の映画です。イランの小学生が主人公で、間違っけて持ってきた友だちのノートを届けようと、友だちのうちは探す物語です。

Q. 何歳のときに、映画をつくろうとおもいましたか。

A. 24歳のときです。23歳までは歌手になりたかったです。

Q. どうして映画監督になったのか。

A. 映画を一度つくってみたらおもしろくて、死ぬまでずっとつくっていたいと思ったからです。

Q. 今どんな映画をつくろうとしているのか。

A. お家もないお金もほとんどないけど、楽しく生きている5人家族のお話です。

Q. 監督の自信作はなんですか？

A. 「ウルトラミラクルラブストーリー」です。この映画を好きっていうお客さんと嫌いっていうお客さんと、どっちもいて面白かったです。ツタヤでかりられるのでみてね！



@ひろさき2014

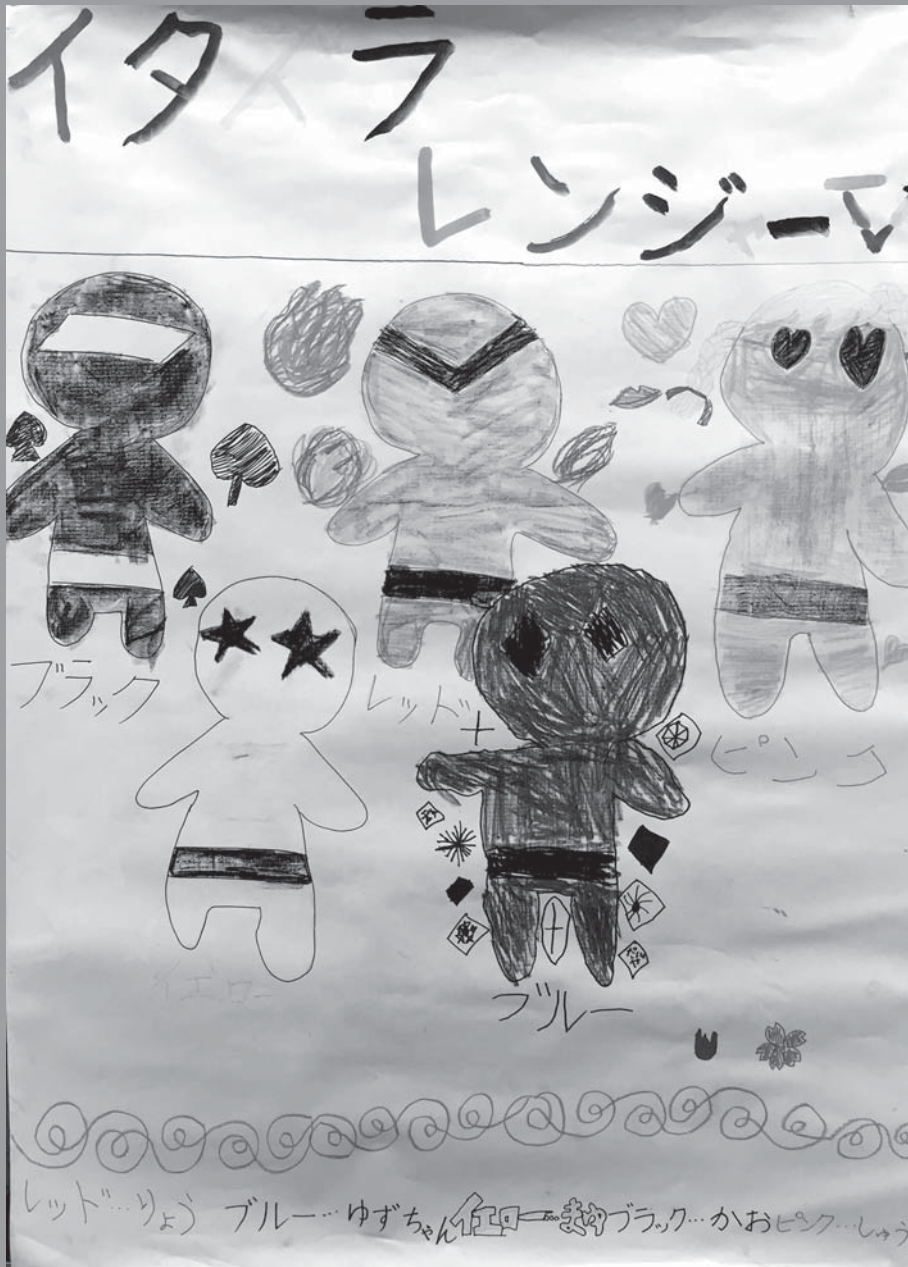
2014.7.25 (金) ~27 (日)

3日かんのみんなの感想





# 赤チーム イタズラレンジャーV



～あらすじ～

ある大人がむかしのことを思い出していた。ある、せんたいのものをやっていた。その名はイタズラレンジャーV！イタズラレンジャーVは、たくさんのイタズラをたくさんしていた。そのイタズラとは—

- 神菜結子 (まゆちゃん)
- 佐藤秋 (しゅうくん)
- 小田桐諒 (りょうくん)
- 小笠原花桜 (かおちゃん)
- 重藤柚葉 (ゆずちゃん)

### ▼サポートスタッフ

- 横浜聡子 (はまちゃん)
- 廣瀬ともみ (ひろちゃん)
- 金田美穂 (みぼりん)



「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

私は、映画を「子供だけ」で「つくる」なんていとか「想像も  
つきませんでした。1日目の時、緑の相談所に向かうだけ  
で、きんちょうしていました。私は、人見知りで、イベントな  
どにも、同じ小学校の人がいないとダメでした。でも、この  
イベントで初めて「全く知らない人と映画を作りました。  
お話づくり→フッさえい→編集を3日間で作るのはとても  
大変だったけど、なんとか大人スタッフの方にも手伝って  
もらいながら、完成させることができて良かったです。  
今回は、とても楽しかったです。ありがとうございました。

神 頼結子

「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

三日目と行っててもめい、かい、かんてい  
こ、ま、ひ、で、ま、よ、う、ら、た、で、ま、

あまり、い、さ、く、ひ、ん、は、で、ま、な、う、ら、た、け  
と、こ、ん、ど、も、こ、の、よ、う、な、イ、ベ、ン、ト、が、あ  
れ、た、ら、い、き、た、い、て、あ

名前 佐藤 朱火



「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

こいしよはできるかしんぱいだったけどなれてきてからは、とてまたのしかたです。こんどこういうきかいがあったらつぎはみんながもっと笑顔になられるような楽しいえいがを作りたいです。今回のえいがでは全員とはいやむからたがど笑ってくれた人がいたのでよかったです。こどもえいが教室は夏休みの中でとても楽しい三日間でした。

名前 小笠原花桜

「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

マイクがおもくて、たいへんだったです。ポスターをかくのがすごく、たのしかったです。みんながじゃーまんぷらすはれとかをいいました。カナラがおもってたより、かんたんでした。じぶんたちのえいがが、いちばんながくてよかったです。だんのうえにあがったとき、おかあさんとしらぬのこともかいてたので、かわいいなーとおもいました。べんきょうになりました。名前 しげとう ゆずは



「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

ぼくは、年生の時に夜ふかをして、「テケネ」と出会い、  
ストップモーションを作るようになりました。映画教室のチラシを  
見たとき、「またあ！映画がつかえる」と思い、参加しました。

アフレコで、タイトルを言ったり、音楽を歌ったりして、楽しかったです。えん  
ぎをするのも初めてで、楽しかったし、思った以上に、役になりきりま  
した。また来年も、映画教室に参加したいです。ぼくも、かんとかのよう  
に、映画をつくらしてみたいです。楽しい日間でした。ありがとう  
ございました。

名前 小田桐諒







# 青チーム

## 魔法使いのかくしごと



### 魔法使いのかくしごと

7月27日

#### 役者名♡

- ・うめ(リサ役) ・さら(リサ役)
- ・さかもとくん(ゆき役)
- ・はっくん(はると役)
- ・はるひ & まっちゃん(相談役)
- ・ニッキー(王様役)
- ・しょこたん(おきさき様役)

～あらすじ～

魔法使いの2人の少女がいました。魔法界のおきさき様と、王様に命令され、人間界へ行った。3年間人間界でくらしていたが、男子の2人に魔法使いだということが、ばれてしまった!?

- 清野幸芽 (うめちゃん)
- 坂本勇希 (さかもとくん)
- 太田紗愛 (さらちゃん)
- 葛西陽人 (はっくん)
- 笹陽日 (はるひちゃん)
- 佐藤まな (まっちゃん)

#### ▼サポートスタッフ

- 西原考至 (にっしー)
- 太田尚子 (しょこたん)





「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

こども映画教室は、とても楽しかったです。私が考えたのは、映画の題名やあらすじです。題名は最初「魔女のひみつ」だったんですが、私は「魔女のかくしごとはどう?」と聞くとみんなにみとめられたので、うれしかったです。私は役で主役を演じました。自分で主役をやったことなく、ずっと不安でしたが、自分なりに楽しかったなあと思います。そして、初めて映画を作って楽しかったです。ポスターの色合いは、下の赤は下場橋の赤で、緑は弘前公園です。いい経験になったと思います。ありがとうございました。名前 清野 幸芽

これからも映画教室のみなさん、がんばってください。☆ファイト!

「こども映画教室@ひろさき 2014」感想



わたしが、心にのこったことは、自分たちの作った「まほうつかいのかくしごと」のえいがかが、正直いって、一番おもしろかったです。♡

青チームにはいれてとてもよかったです。☆

わたしは、この「こども映画教室@ひろさき2014」がいままでで、一番楽しかったと思っています。あの3日間はわすれませ

名前 太田さくら



「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

3日間をふりかえってみると最初に知らない人たちと仲間になることから始まり、同じ時間を過ごして自然に仲良くなって、映画を作るという一つの目標にむかって一生懸命になってました。一つの映画ができるまでに、長い月日がかかっていることも知らなかったし、いろんな役をもつスタッフがいて、完成するまでにいろんな苦労があるんだと知りました。今度は映画を見たりするときに、今までとはちがう見かたができるので、楽しみです。舞台あいさつが終わり、みんなと別れるのはとても悲しかったけれど、またいつか会えると思っておきました。聡子監督、えっちゃんさん、ニッシーやしこたんもここでしか会えなから、たけれど、ほくは絶対に忘れません。ゆめのような3日間、ほくの10月の夏休みのすばらしい思い出になりました。

名前 坂本 勇希

おまけ

聡子監督が2年前にりんご農家のむすめ、のオーディションをうけた妹のことを覚えてくれました。家族みんなでビックリしました。とてもうれしくてありがとうと言っていました。聡子監督は出会った人のことは忘れないでいたのは、本当な人だなと思いました。ほくのこと絶対に忘れないでね。

「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

こどもえいがかんと  
えいがかを作るところがたのし  
からたです。  
えいがかを作る中、草むかひね、こ  
ろがたをかグリーンをかかかん  
みたり、って言われました。  
できあがったえいかはおもしろ  
からたです。

名前 さとうまな

「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

私たちの映画は、元気のあるいい映画になりました。  
この3日間映画を作りました。そして、新しい友たちがふい  
たりして、とても楽しか、たです。けんかもなく楽しくてよかったです。  
私はおもに、カメラのさっしをしていました。カメラの使い方が  
最初はおかんたんそうにも感じたけどドキしました。でも、た  
びみると、むずかしかったし、重かったし、あと勉強にもなりました。  
3日間ありがとうございました。おっかれさまでした。

ササハルヒ(女)

名前 笹 陽日

「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

映画を作るのがとてもむずかしかったです。  
その中でもさっしいのかカメラの使  
い方がむずかしかったです。

青チームが作った魔法使いの「く  
しごと」を、お母さんがほめてく  
れたのでうれしかったです。

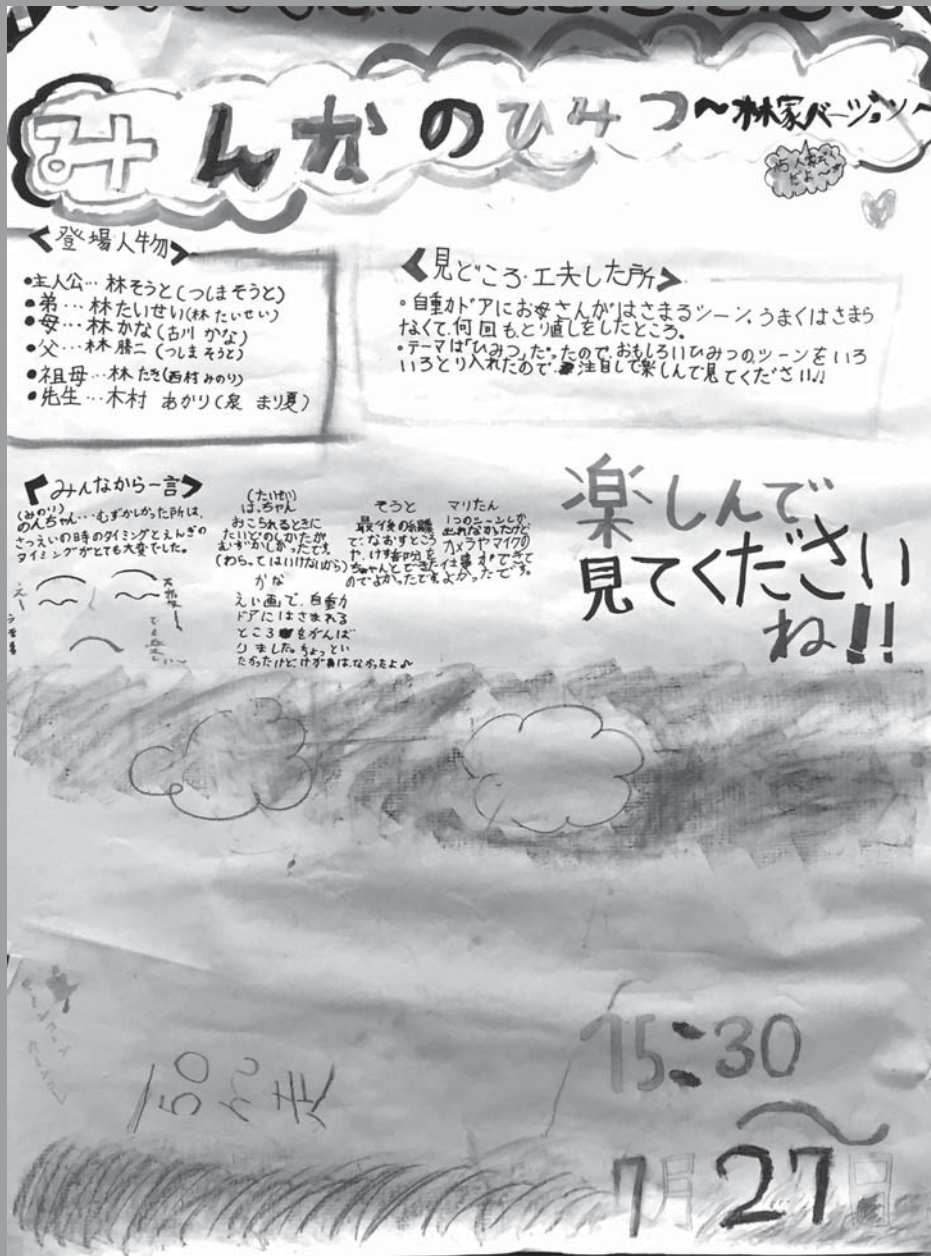
名前 葛西陽人





# 黄チーム

## みんなのひみつ ~林家バージョン~



~あらすじ~

林家の恥ずかしいひみつを今回特別告白します。  
林家はどんな方法で克服するのでしょうか。  
一人二役やった場所もあるので楽しんで見てください。

泉まり夏 (まりたん)

對馬奏人 (そうと)

西村みのり (のんちゃん)

古川花奈 (かなちゃん)

林大晴 (はっちゃん)

▼サポートスタッフ

奥定正掌 (おっくん)

及川典子 (おいちゃん)





「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

私はこの映画づくりをしてみたい協力をして、映画をつくるという必要と達成感の2つをあげることができました。映画をつくり始めたときは、どんなものになるのだろうと心配していました。理由は、男子があまり協力的ではなかったからです。でも、ほかのメンバーで声をかけ合ってなんとかが上手に撮えいもできました。上映会はとてもきんちょう音名前 泉 まり夏 (まりたん) したけど、無事に終了できてよかったです。

「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

一日目のシナリオ作りは楽しかったです。帰る時はずっと明日が楽しみでした。二日目のさっはいは、えん天下の中でたおめるかと思いました。かんとくにならなつえいしたので、自由にとれた事が楽しかったです。セリフはアドリブもあり、おもしろかったです。三日目は、男子は編集、女子はポスター作りと、分たしました。編集は、カットする所がむずかしかったです。えいが作りは、ハードだけど、協力してできました。最後に、少しさみしい気持ちになりました。またいつか作りたいです。ありがとうございました。

名前 對馬 奏人

「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

この前、ナイトミュージアムを見た時、本当に怖いと感じや

らなくてという感じが本物を見たいです。おかげで、こども

いかなきゃダメだし、見たいよ

何気なく見ているえいがか、がどんな手順で

出来ているかかすこくわかりやすかったです。また、

友達ともいっしょに、お出かけしてとてうれしかったです

です。また、どこかでみんなと会いたいです。

黄チームのみんなを教えた人達おじいさん <sup>黄チーム</sup> 名前 西村みのり

とま、ちやんじやなくてあ、い、あ、い、ん、あ、り、か、と、ら、こ、さ、ま、し、た、い、♡

「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

わたしは、黄色チームでみんなのひみ

つ木木家バーションに出えんしました。

母やぐで、自重力ドアにはさまれる所

をえんじました。さいしよは、きんちょうし

(※その中のしゃぐどはな、い、ので、大きくがきま、  
せんがテストで0点をしたむす子におこるやぐもしました)

ていて、あまり、言合せなくて、大へんでしたが、い

つの間にが中よくなっていて、びっくりは

した。ぜんぜん知らない人と、こんなこと

ができるとは、とても (名前 吉川花奈) いい

けいけんでした。



「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

ばいめがキドにたけとたんたはれてきてまいにち  
はやくいきだかつた。

予ストをかくときまちがったことえさかくのがむずか  
しかった。ステージのうえでまちがいに予ストは  
おとほいしときかれたときかれたときおし  
ばいめいのみがわからなかった。

またこんとあたらしいえいがきつてみたい

名前をかいたせい







# 緑チーム

## 悪魔の呪いの謎



～あらすじ～

家に呪いの手紙がとどいたあいりん。  
手紙には『呪いの宝石』を悪魔にわたす  
ため、シंगा城に来て下さい：と書かれ  
ていた。悪魔に宝石をわたした時、あいり  
んは閉じ込められてしまう。  
あいりんは脱出できるのか!?

鎌田愛理 (あいりちゃん)  
松山華花 (はなかちゃん)  
高橋正宗 (ペコくん)  
葛西修造 (しゅうぞう)  
山本舞 (まいぴょん)

▼サポートスタッフ  
船木統紀子 (ときちゃん)  
菅野寛高 (ひろっぴー)





「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

私は、カメラをやってみたかったんですが、主役をやる事になり、始めは出番が多くてはあ"かしかったんですが、やっているうちに楽しくなってきました。とても良い経験が出来たと思います。

自分たちの力で映画をつくらせてうれしかったです。映画を観るのは大好きで、たくさん観ます。今度から観る時はこれって、どうやってとったのかやあ、とか思うかも！

映画教室に参加できてよかったです。名前 鎌田 愛王里

「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

映画を初めて作、たけど、とり直しなどをたくさんしてすごく大変でした。

でも、こんなに大変なことをやっている人達は、もと大変だと思いました。

緑チームのめんどうを見てくれた、子どもスタッフのひろ、ぴーさん、ときちゃんにはありがとうございました。またやる時は参加したいです。

名前 松山 華花



「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

ぼくはこの映画教室に参加して、音響の仕事を体験できて、うれしかったです。映画を作る時に、チームを作って、意見を出しあっている時や、どうやってつづえをするかや、編集をしている時に、映画づくりはコミュニケーションが大切だなと思いました。人生一度できるといい体験ができてとてもうれしかったです。また開催してください。

名前 高橋 正宗  
おどろチーム (ペコ)  
- 応がいておきました。

「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

さつえい、かいたの(かたて)まなせかといふとみんなて見たか(て)まつくてる時はむずかしか(たて)また(て)いどうをしたり、へんしゅうもした(から)て(ま)いちばん(たの)か(た)と(ころ)が、みんなて(うた)ま(つく)た(から)て(ま)た(の)か(た)て(ま)また、(さん)か(し)た(い)て(ま)

名前 か西 修彦



「こども映画教室@ひろさき 2014」感想

今回初めて「こども映画教室」に参加しました。わたしが出演したのは1シーンだけでしたが、主人公あいりんの声や悪魔のセリフなどを考えていろいろと役目がありました。上映会で自分たちの映画が上映されたときは、なせか耳がずかしかったです。3日間でできた友達とはなれるのはとてもさみしいです。名前 山本 舞

また映画教室があれば行ってみたいです。まあさん、ときちゃんひろちゃん、横浜かんとく、スタッフのみなさんありがとうございました。





# 横浜聡子 (はまちゃん)

参加してくれた子どもたちへ

私のすんでいる東京というまちは、新しいビルが建ってはこわされ、また同じ場所に別のビルが建ってはこわされ……と、ものすごいスピードでまちの景色が変わってゆきます。ゴー、グォーっと、人やモノの持つエネルギーが、まちのあちこちでいつも燃えさかっています。

映画作りもそれとちょっとにしています。年れいとか、性べつとか、性かくもばらばらのみんなが、「映画をつくる」というひとつの目標にむかうと、ものすごい大きなエネルギーが生まれ、場所や時間をのみこんでいきます。今回のこども映画教室でも、そんなエネルギーがあちらこちらでうまれていました。

映画は、けっきょくは、人々の力が集まったもの。「あーでもない、こーでもない、こうしたらもっと良くなる、もっともっと素敵にしたい。もっと！もっと！」っていう、ひとりひとりの、心意気があつまったもの。それがなかったら、映画は作れない。あの3日間、じぶんたちの力で、映画にむかってまっしぐらに、ましようめんからつき進んでいるみんなから、私はそんなことをおそわりました。

みんなの作った映画、とってもおもしろかったです。大人が作る映画よりもおもしろかった。決まりごとにしばられず、「おもしろいこと」を追求しようというみんなのすがた、ほんとうにかっこよかった。

## ○赤チーム「イタズラレンジャーV」

まちの人にいたずらを仕掛けてみる……!? 何がおこるかわからないハラハラドキドキがいつもありました。ハラハラしすぎて、チームリーダーとしては口出ししすぎてしまってたらごめんなさい。「どういう結果になるかわからないけど、やってみよう！」という気持ちは、映画づくりでいちばんだいじなことですね。あの瞬間のみんなの息づかいが、映画をみているこっちにちゃんと伝わってきました。

## ○青チーム「魔法使いのかくしごと」

弘前公園のきれいな緑、弘前城、あかい橋、ブランコやシーソー、どれもうつくしかった。魔法使いたちは、さいごは「魔法をつかわないでいきっていく」という、楽じゃない、険しい道のりをえらんだんですね。この映画のありかたみたいで素敵だと思いました。この映画も、CGもつかわず、ひとつひとつ、ていねいに、積みあげ作られた映画だからです。津軽弁のセリフも最高でした。

## ○黄色チーム「みんなのひみつ 林家バージョン」

どんなお話なのかというよりも、校庭を走っているすがたや、算すうのテストをうけてるすがたや、ドアにはさまる瞬間などのひとつひとつのシーン、ひとつひとつのみんなの動きや表情に見入ってしまう、そしてそれがずっと心にのこる、とても不思議な映画でした。人がいきてるすがたさえちゃんととらえられれば、それだけで立派な映画になることを証明してくれました。

## ○緑チーム「悪魔の呪いの謎」

ドアのすきまから黒い羽がさらさらとおち、手紙がニュッとあらわれる冒頭、ドキッとさせられました。ゴミ袋で作った黒い羽の衣装、みんなの声でつくられた摩訶不思議なオリジナル音楽、創造がいっぱいつまった映画でした。ものづくりをとことん楽しんでいるみんなの躍動そのもののような映画でした。

みんな、3日間、いろんなことを私に教えてくれてありがとう。

ハマちゃんこと横浜聡子より

## 廣瀬ともみ (ひろちゃん)

|| 赤チーム / サポートスタッフ ||

子ども映画教室の3日間は、とても貴重な体験でした。

普段子どもとふれ合う機会が少ないため、映像制作を通して、子どもたちの何度もシーンを書き起こす姿、ひとつの場面を納得いくまで撮る姿、自作の衣装や道具を作る姿と、ひたすら頑張り続ける姿がキラキラと眩しくて、私が元気をもらっていました。最後の最後まで映画が出来上がるか心配したことも今となってはいい思い出です。どのチームの作品も個性的でとても面白かったなあ。

赤チームでは、ゆずちゃんの言葉は一つ一つが面白く、他のメンバーとは違う視点を持っていてハッとさせられました。かおちゃんは映像を撮る時のカメラの指示と考え方が上手で、ポスター制作ではサクサク進行していました。りょう君はみんなが恥ずかしかったイタズラをとびっきりの笑顔で進んで実行していました。しゅう君は映画のアイディアをどんどん出して、面白さを追究していました。まゆちゃんはスタッフとチームの輪を気遣い大切にする優しさが印象的でした。

素敵なのが凝縮された、かけがえのない3日間でした。

最後になりますが、このような機会に参加させていただき、本当にありがとうございました。

## 西原孝至 (にっしー)

|| 青チーム / サポートスタッフ ||

大人スタッフで参加した、ニッシーです。

ニッシーは、ひろさきにはじめて行きました。

青森は、とってもよいところでした！

3日間で、はじめて会った人たちと、映画をつくるなんて、大人でも難しいことです。

でも、とてもすてきな映画ができたと思います。ニッシーは感動しました。

みんな、自分がやりたいこと、とりたい映像が、いろいろあって、

もうすこし、こうすればよかった、と思うところもいっぱいあるでしょう。

でも、班のみんなで話しあって、いろんな人の意見を聞いて、

「この人はこういう風に考えるのか」って、自分とは違う考えをきいて

そうして、世界にカメラを向けてみたら、3日後には映画ができてましたね。

映画って、みんなでつくるから、おもしろいのだと、ニッシーは思います。

みんなの、いろんな思いが詰まったから、すてきな映画ができたのだと思います。

「これがおもしろい！」って、カメラを向けたこと、忘れないでほしいなと思います。

世界って、いろいろあって、おもしろいよね！

カメラって、それを映して、みんなに伝えることができるから、おもしろい！

みんな、いろんな夢があるとおもうけど、どんな大人になっても

映画のこと、すきでいてくれたらうれしいです。

ハマちゃんやニッシーが映画つくったら、みにきてね！

どこかでまた会えたら、「あの3日間ちょうたのしかったね！」ってはなしましょう。

3日間、ありがとうございました！



## 太田尚子 (しょこたん)

|| 青チーム / サポートスタッフ・事務局 ||

私は事務局として受付もやっていたので、参加してくれる子どもたちの名前を約1ヵ月間、毎日のように見てきました。実際にメールでやり取りをしていたのは、みんなのお母さんやお父さんたちだけけれど、みんなの名前を見ながら、「どんな子どもたちが参加してくれるんだろう？」と想像を巡らせるのが日課になっていました。だから、1日目にみんなに会えた時はとてもうれしかったです！

人見知りの私が、みんなと仲良くできたのは、みんなの名前をずっと見てきたからなのと(みんな、本当にステキな名前だね。大切にしてください。)、みんながとっても元気で、とっても優しい子どもたちだったからです！本当にありがとう。

3日間、みんなの笑顔や、真剣な顔、はしゃいでる姿を見る事ができて、とても幸せでした。赤チームも青チームも黄色チームもみどりチームも、3日間、一緒に映画をつくることで素敵な仲間になれたと思います。どのチームの映画もおもしろかったです！

みんなは、これから先、楽しいことをいっぱい経験していくので、もしかしたら映画教室のことも忘れちゃうかもしれませんが、忘れたくなくても忘れちゃうかもしれないけど、みんなは「映画」という形に残るものを作り出したから大丈夫です。大人になったらこの映画を観て、楽しかった3日間を思い出してください。みんなにとってステキな宝物になりますように。。。

## 奥定正掌 (おっくん)

|| 黄チーム / サポートスタッフ ||

[こども映画教室@ひろさき]の3日間

この3日間が過ぎた直後は、とにかく夢のような時間があっという間に去って行ってしまったなあ、という感じでした。みんなと一緒に話しをしたり、お弁当を食べたり、わいわいと遊んだりしているうちに、何だか知らないけれど、映画が一本できあがってしまったね……そんな感じです。「映画は夢の工場だ」と、誰だかが言っていたように思いますが、まさにその「夢の工場」に迷い込んだような、あっという間の3日間でした。ああ、とっても楽しかった！

僕は黄色チームのリーダーでした。今でもチーム一人一人の夢中になっている顔が、しっかりと僕の目に浮かびます。……ん？ リーダー？ 確かに僕は黄色チームのリーダーとして、こどもスタッフのおいちゃんと共に、チームのみんなを映画作りへといざなっていく役目ではありました。でも、あれから10日ほど経った今、落ち着いて振り返ってみると、どうもその役目を果たしたという実感が薄いことに驚きます。これは一体なんだろう？ どうも僕は、ただ、みんなと一緒にいただけというか、逆にみんなについて行っただけというか……。そう、僕は、黄色チームの五人のみんなに誘われ、あの魅惑の「夢の工場」へと連れてってもらい、わいわいと楽しく案内してもらったのではないのかな？ あの時のみんなの明るい声や真剣な表情の一つ一つが、「ね、映画作りってこんなに楽しいんだよ」と僕に語りかけ、ぐいぐいと手を引っぱられ、夢の工場と一緒に見て回ったというような……そんな、3日間だったようです。僕自身が持っている映画への夢を、みんなが大きく大きくしてくれた3日間。でもこれじゃあ、こども映画教室というより、おっくん映画教室だね。

最後に、そんな素敵な案内人たち五人、まりたん、そうと、のんちゃん、かなちゃん、はっちゃん、そして同じく案内された同行人おいちゃん、この黄色チームのみんなと過ごした3日間は、僕の宝物です。ありがとう！

## 及川典子 (おいちゃん)

|| 黄チーム / サポートスタッフ ||

子どもの映画製作に関わることが出来て、私も学べるのが沢山ありました。そして、黄色グループ、その他のグループが三日間かけて作りだした作品にわくわくしました。関係者の方、黄色グループのみんな、ありがとうございました。

この子ども映画教室は子どもにとってまた学校とは違った要素で、社会で役立つ力を養うものであったと思います。

私は看護学生で、現在四年生です。私は、大学三年生くらいまでは、先生や指導者が全て答えを知っている、もしくは教科書に答えが書いてあると思っていました。ですので、実習中「あなたはどう思う？」と問われたときにとっても困りました。沈黙している私たちに看護師さんは言いました。「答えはないから、あなたの考えた意見を聞きたいの。」

そのとき、オトナは、目標(≠答え)を自分たちで決めることもしているし、そのために教科書がないなか自分たちで調べて考えて動いていることに気がつきました。

いざオトナになってきて、こういう場面になったとき、必要な力はなんだろう。私たちが子どものうちから身につけた方がいいことってなんだろう。そういうことがこの子ども映画教室には沢山詰まっているように思いました。

あらゆる人の価値観を知る、人と協力すること、発想すること、工夫すること…それぞれにあらゆる視点の学びがあったと思います。子どもにとってもスタッフにとってもとても有意義な時間になったと思います。

## 菅野寛高 (ひろっぴー)

|| 緑チーム / サポートスタッフ ||

たのしかったこと、  
わらいあったこと、  
なやんだこと、  
けんかしてしまったこと・・・  
この3日間でみんなはたくさんの体験をしたね。

いろんな人たちがあつまって、  
なにごともなく1つの作品を作るのは、  
大人の僕たちでもむずかしいことだったりします。

そんなむずかしいことを最後までやりとげた、  
これはとてもすばらしいことです。  
むねをはって、じまんしよう！

今回のこども映画教室をとおして、  
作品づくりの楽しさを、  
少しでも感じてもらえていたらうれしいです。



僕もみんなからたくさんのことを学びました。  
またこのようなきかいがありましたら、  
「見守るプロ」をめざして、  
みんなをもっとサポートできるようがんばりたいです！

ありがとうございました！

## 船木統紀子（ときちゃん）

|| 緑チーム / サポートスタッフ ||

### 「3日間の通信簿(つうしんぼ)」

みどりチームのみなさん、お元気ですか？　ときちゃんです。

映画教室の3日間、ときちゃんにとっては苦勞もありましたが、やっぱり(緑チームと出会えてよかったなあ、楽しかったなあ)という思いが先立ちます。

ただ、ときちゃんはストーリーや演出にもうちょっと口出しすればよかった、と後悔・反省もしています。『悪魔(あくま)の呪(のろ)いの謎(なぞ)』がああなるまで、いろいろな問題がありましたが、もう少し手をくわえられれば更によくなったんじゃないかなと考えたりします。

それでも、みんなが映画を作ったという事実は変わりません。2日目、暑い中昇天(しょうてん)教会まで歩いたけど、いい作品を作るにはああゆう努力をいっぱい積み重ねなければいけません。努力をした分だけ、いい作品ができます。これからいっぱい作品をつくってってください。それは映画に限ったことでなくていいのです。(もちろん映画ならもっとうれしいよ)

さて、ときちゃんは緑チームの通信簿を用意しました。よかったら今後の参考にしてください。順番は、名前のあいうえお順です。

#### ・あいりちゃん

よかった所

…役者はいやだったろうけど、よくがんばったね。あいりちゃんは背も高いし、かわいいので(みんなかわいいんだけど)主役に選ばれたんだと思う。今回のことで自信がついたんじゃないかな。

ちゅうい点

…かんたんに「死ね」と言っちゃうのはやめたほうがいいよ。「言葉には言霊(ことだま)がやどる」といわれていて、よくないことばかり口にしてしまうと、よくないことばかり起こっちゃうらしい。

#### ・修造(しゅうぞう)くん

よかった所

…せっきよくてきに、一生けんめいカメラを回したね。おうちでもビデオカメラを使っているって聞いたよ。編集の時も、パソコンの使い方やショートカットをいち早く覚えたし、機械に強いんだね。

ちゅうい点

…作業をする時はもっと集中したほうがいいよ。一つのことに力を注いでから、次に進まないといい作品ができないんだ。あと撮影するときは、いらぬものが画面に映っていないかよく確認しようね。

・はなかちゃん

よかった所

…とちゅうから監督(かんとく)に任命されて、こだわりをもってやりとげたね。やっぱりあいりちゃんが主役で正解だったと思う。みんなに指示を出したり、アクマ役もやったり、大変だったね。

ちゅうい点

…監督は意見を通すことも必要なんだけど、ペコくんが「自分の意見を聞いてくれない…」となやんでいたよ。「却下(きゃっか)！」だけじゃなくて、なんでダメなのかを伝えないとケンカになっちゃうよ。

・ペコくん

よかった所

…マイクの担当としてよく働いたね。怖い音楽やボイパ、俳句・川柳なども多才だなあと感じたよ。ハリウッド俳優になりたいというのも、うなづける。芸をきわめていけば、きつとなれるよ。

ちゅうい点

…ペコくんが役者というのを見たかったなあ。他の人にちょっとマイクを交代してもらって、出演してもよかったかな。あとハリウッド俳優になるんだったら、英語も覚えなきゃね。色々勉強しなきゃ。

・まいぴょん

よかった所

…脚本づくりをせっきょくてきに頑張ったね。ポスターのイラストも上手いし、マンガ家や小説家、脚本家を目指せばいいと思う。逆光とかの難しいことも分かってるし、頭がいいなあと感じたよ。

ちゅうい点

…ストーリーは私立怪盗クラゲのことについて、もっと深められればよかったかも。まいぴょんの中には、私立怪盗クラゲのキャラクターができあがっているんだね。クラゲが主人公でも面白いと思う。

・緑チーム全体として(総評(そうひょう))

一人一人が意欲(いよく)をもって映画作りにはげんでいたね。何も言わなくてもストーリーを考えたり、アイデアを出したり、ミスした人を助けたり。おもしろいチームだったよ。

3日目に男子女子で大ゲンカしてしまったのは、ときちゃんもショックだった。グループでの作品作りは、人間関係が大きく影響(えいきょう)するんだ。みんながどれだけ頑張っても、とちゅうで人間関係が崩れてしまうと、作品はうまくできなかったりする。仲間と仲良く協力することで、いい作品ができるよ。

しかも、みんながとちゅうどれだけ頑張っても、お客さんはできた作品しか観てくれないことが多いんだ。だから、いい作品を作ったほうがみんなもすっきりするし、お客さんもよろこんでくれて一石二鳥(いっせきにちょう)だよ。そのためには、みんなで助けあって一生けんめい作品に取り組むことが大事なんだ。

以上、通信簿でした。

みんな色々思うところはあるだろうけど、あの3日間のことを忘れないでいてもらえるとうれしいです。ときちゃんは弘前にいるので、どこかで会うかもしれません。見かけたら声をかけてください。みんなの活躍をいのっています。またね。



## 奈良俊雄 (としお)

|| 記録 / スチール ||

暑いなかホントにみんな頑張ったなあって

初日の初めて会うであろうちょっと緊張した顔から  
最終日の打ち解けた顔への変化がファインダー越しでも良くわかりました

真剣な表情  
ふざけた表情  
ほんとにみんないい顔してました

直接子ども達とは触れ合わないはずの立場だったけど  
一番いじめられたのは間違いなく僕でしたね

またみんなに会える日を楽しみにしています

## 吉谷拓海 (たっくん)

|| 記録 / ムービー ||

今回1日だけの参加ということで全体を把握することはできませんでしたが、そんな中でも子供たちのいきいきとした様子からとても充実したものであったのだと感じました。また、子供たちの作品や撮影風景を見ていると独特な視点や表現に驚かされることが多々ありました。私は美術の教師を目指しているので、将来的に映像作品を授業に取り組みたらと深く思えたので参加して本当に良かったです。

## 加藤大地 (だいちゃん)

|| 上映スタッフ ||

生きている。子供からそれが強く感じられる取り組みだったと思います。

私が参加させていただいたのは、ミーティングと当日最終日、編集、放映を含む最終段階でした。編集中の動画を見て本当に驚きました。大人が方向付けを手助けしているにしてもしっかりとストーリーが出来上がっており、セリフ表現にまで工夫が加えられていました。助けは出すけれど、出来るだけ子供たちの力で作っていく。という思いがそのまま映像に表れているようでした。アイデアが豊かで良いと思ったものを恐れずに出す力がかえって子供たちの方が強いのではないかとすら思いました。ポスターでは、恐怖のイメージを描くために絵具を薄く溶いて上から散布することで血の様に見せたり、動画に魔王の笑い声をいれたり(怖いはずなのにちょっと面白い)。

色んなアイデアが出るにはやはり子供たちの感受性の豊かさ、温かさがあるのではないかと思います。最終日にいきなり登場した私をあっという間に和の中に入れてくれたり、些細なことにも興味をもってなんで?なんで?と探りを入れる純粹さがとても良く出た教室であったと思います。子どもたちは3日間を通して映画作りに始まり、新しい友達が出来たりと色んな発見があったことと思います。けれども、参加した私達大人が何よりもはっとさせられることが多かったんじゃないでしょうか。そんな映画教室でした。

## 小杉在良 (ありちゃん)

|| 記録ノムービー・事務局 ||

映画って、すばらしいなあ。  
大きい野っ原のようだ。

おとなも子ども一緒に遊んで、楽しんで。  
戦隊もの、ファンタジー、冒険、ホームドラマ、  
どんなジャンルや、やり方でも  
その野っ原の上で、楽しく、がんばって遊べば、みんな映画にしてくれる。

映画は、草木でできたフカフカのふとんのようにつつみこんでくれる。  
ちょっとはっぱや枝の先が  
チクチクもするときもあるけど、みると勇気をくれるんだ。

またこの野っ原で遊ぼうね。

## 森田亜岐子 (もりちゃん)

|| 事務局 ||

はじめて会ったおともたちと、3日間で映画をつくるなんて、ほんとすごいと思います。

最初の日の受付でとっても不安げそうだった子どもたちの顔が、「映画をつくる」という目的に向かってい  
ろんな人と話をしながらひとつひとつ作業を進めていくうちに、どんどん大人の顔になっていくのがわかり  
ました。

大人からの指図なく、すべて子どもたちだけで一緒にひとつのものを作りあげること。この過程や達成  
感を、小学生という頭のやわらかい時期に経験することは、これからのかけがえのない人生を、自分らしく、  
たのしく生きぬいていくために、とても大事なことなのではないかと思います。

みんな、またいっしょに映画をつくろうね！ たのしみにしてるよ！！





## 保護者の方から寄せられたメッセージ

三日間大変お世話になりました。全く知らない子供達と一緒に映画を作ったことは、子供にとって夏休み一番の思い出になりました。

小さい頃から他の人の話を聞いたり自分の意見を聞いてもらったりすることは、とても大事なことで、日頃から考えております。

今回こうして新しい仲間と1つの映画を作り上げた子供たちはとても立派だと思いました。本当にありがとうございました。

この度は貴重な体験をさせてくださり、ありがとうございます。

”充実”という言葉がぴったりの三日間だったと思います。『明日が楽しみ！！』とわくわくが伝わってくる息子の姿は親がジェラシーを感じる程…うらやましかったり…

ディスカッション(!?)を交わし、仲間と共通の理解を得るという満足感なのでしょうネ。

子どもたちの力は、そのピュアさにあることだと発見できました。

音楽を伝えることを仕事とし、子どもたちと日々過ごしていますが、私も自然体で横浜監督のよう、子どものパワーを引き出し伸ばしてあげられる大人にならねばと思いました。

『明日のわくわく』のために。

最後になりましたが本物の体験をありがとうございました。宝物です。

小学1年生ということもあり、「映画」というものをよく知らないのも、皆様にご迷惑をお掛けするかもしれないという心配もありましたが、この貴重な体験をさせてあげたいという思いもあり、本人と話し合っって申し込みをしました。

実際に始まってみると、初日こそ少し緊張していたものの、あとの2日間はとても楽しそうでした。

子供たちの4本の映画は、編集の力もあると思いますが、とっても面白かったです。それぞれのチームの個性が出ていて、本当に感心しましたし、感動しました。

子どもは、最近、デジカメのビデオ機能を使い自分でお題を決め、色々と撮ったりしています。

この体験は、年を重ねるにつれ、その貴重さが分かるのかもしれませんが、小さいながらも映画づくりについて学ぶ機会があったことに親子ともども良かったと思っています。

横浜監督をはじめ、スタッフの方がたには本当に感謝しております。ありがとうございました。

そして、いつかまた弘前にて映画教室が開催される事を期待しています。

## 土肥悦子 (えっちゃん)

|| 「こども映画教室」代表 ||

こども映画教室を開催するとき、プロデューサーとして大切にしていることが三つあります。一つ目は人です。特別講師に招く監督、事務局やチームリーダーとして教室を支えてくれるスタッフ。二つ目は場所です。場が持つ力は計り知れません。そして三つめは教室の内容です。はたして、ひろさきではこのすべてが最高の形で実現したのです。

まず人。青森で映画教室をやるのなら、ぜひとも青森出身の横浜聡子監督に特別講師をしていただきたいと最初から思っていました。縁がある、ということだけでなく横浜監督の映画に出てくるこどもたちはみんなどこかへんてこりんで、面白いからです。そして映画が大好きな大先輩、三上さんのいる harappa が事務局だったら安心、と思っていました。そのすべてが叶いました。横浜さんをはじめとしたチームリーダー、こどもサポートスタッフ、事務局スタッフは本当に最高のチームでした。どうやったらこどもたちが面白い映画を撮れるかを大人スタッフが真剣に、本当に真剣に考え、悩んでくれました。こどもを信じて待ちながら、映画だからこそその魅力を伝えようと工夫をこらし、こどもたちの映画の発見を我が事のように喜んでくれました。

そして二つ目の「会場」。緑が眩しい弘前公園。そのなかにある、ひんやりと居心地がよく素敵な、前川國男設計の「緑の相談所」。ここを本拠地とできて最高でした！ また、弘前のフィルムコミッションさんのおかげで魅力的なロケ地が贅沢にも準備されました。こどもたちが撮った映画はどれもが弘前の魅力を存分に映し出していると思います。また、上映会の会場も森田さんや harappa のみなさんが尽力してくださって、弘前中央高校のこれまた前川國男設計の素晴らしい講堂を使わせていただけたのです。

最後の映画教室の内容ですが、これは横浜さんをお願いした時点でほとんどクリアされているのですが、それでも何度も打合せを重ねて、テーマ「ひみつ」が決まり、今度はそのテーマをどんな方法で撮るのか、といったワークショップをデザインしていく過程は実に心躍るものでした。

ここまでの準備は完璧だったので映画教室を迎える当日はちゃんにご飯をたべて、寝ておく、それだけでした。集まってくれたこどもたちはびっくりするほどやる気満々で、びっくりするほど素直でした。うまく行き過ぎてないか？と逆に不安になったほどでした。

本当にそれでいいのか、もっと自問自答してほしい、もっと粘ってほしい。明るく「オッケー！」という声。これではテレビのバラエティー番組のマネになってしまう。でも大人は手出し口出ししないのが映画教室の作法。ではどうすればいいのか、みんなどうしたら伝わるのか、苦悩していました。

二日目の撮影が終わり、浮かぬ顔のスタッフ。ところがこどもたちが撮ってきた映像を見始めると…！！これが面白い！！これならイケるんじゃない？！でもこの面白さにこどもたちは気づくだろうか？ どうやったら気づいてくれるだろうか、また頭を抱えます。

映画の手法である時間の省略やカットバックなどをこどもたちに伝えるかどうするかということもスタッフ間で話し合われました。たとえば50メートル走のシーンをこどもたちは50メートル走る、という話。実際、完成した作品をみたとき、0点だった子ががんばって勉強をして100点をとれるようになる、という



お話で、手作りのわら半紙のテストを1年生の子が1問ずつ解いていきます。2問目、3問目と進んでいき「え…、これ最後まで解くつもり?!さすがに長いだろう?!」と思い、少し焦ってきたころ、テストの答えを書いている1年生の手が汗ばんでわら半紙にはりつき、それをときどき剥がすのです。その仕草がなんともリアルで素晴らしい。そしてついに、まずは0点の答案ができました。そして最後また同じ子がテストをして100点を取るときも、1問目から最後の問題までじっとカメラがそのこどもの手元を映し出したのです。驚きました。映画の文法を教えなかったからこそできあがった名シーンでした。映画の文法を教えるべきなのかどうなのか、まだまだ暗中模索の状態ですが、やはりこどもたちに任せて撮ることの面白さは体験してみないとわからない、と思いました。

編集もポスター作りもタイトルの字もすべてこどもたちが率先して取り掛かりました。ポスター作りのみんな、床に這いつくばって夢中で描いていましたね。

上映会では、お母さんやお父さん、おじいちゃんおばあちゃんも来てくださって、緊張しながらも堂々とした舞台挨拶ができました。

弘前の緑と、明るいこどもたちの笑顔が目には焼きついたこども映画教室となりました。毎朝毎夕、送迎をしてくださった保護者のみなさま、大事なお子様を私たちにお預けくださってありがとうございました。明るく伸び伸びとしていて、どの子も素晴らしかったです。横浜さん、お願いした時から、とっても楽しみにしてくださいました。初日、こどもたちに向けて、映画について語ってくださったこと、お話の中身はもちろん、その真剣な姿をこどもたちは心に刻んだと思います。本気の大人に出会う、ということの大切さをかみしめていました。そして、この企画を考えてくださった森田さん、本当にありがとうございました。青森が急に身近になりました!



## 三上雅通（まーさん）

|| あおもり映像芸術振興プロジェクト実行委員会 会長 ||  
(NPO 法人 harappa 理事長)

今だからこっそり告白します。映画を作る人たちというのはみんなプロなんだ。それも映画なんて一人で作れるわけがない。まず脚本がなければいけないし、カメラ、録音の人も必要。監督はただ座っていればいいわけなくて、みんなを取り仕切らなければケンカが起きる。役者だって、セリフをちゃんと覚えなくてはいけない。編集作業も時間がかかる。そんなこんなでなんとか映画が完成したとしよう。そのあとだって問題。お客さんに見てもらうためにはどうすればいいか、宣伝係はどこにいる？

映画作りは一大事業なのです。こんなに大変なものをこどもごときに作られてたまるか。そう思っていたんですね。

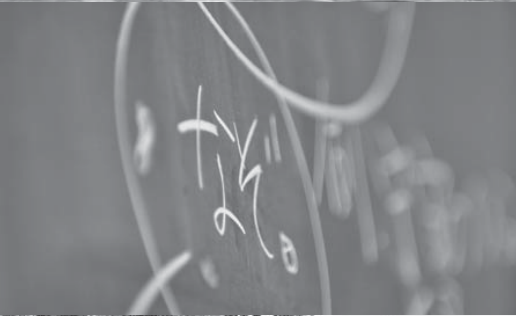
ところが、です。それまで会ったこともない、友だちでもなかったみんなが、4つのチームにわかれて、はじめはすごく緊張して、となりの子をちらっとぬすみ見たりして、そのうち、あれ、あの子ちょっとおもしろそう、わたしストーリーを書く、おれカメラ、よーいスタート！といつのまにか監督まで決まったりして、3日間で4本の映画ができたのには、ただもうびっくりでした。

黒澤明という監督が作った『七人の侍』という映画知ってますか？ 見ず知らずだった7人のさむらいが団結して、村人たちをいじめ抜く悪党たちをやっつける傑作です。みんなも、大人スタッフを入れれば約7人で映画を作ったのだから、7人の侍ですね。

だからこそ、この映画をぜひ見てほしい。そして、映画を作るというのはすごいことだ。僕たちの映画はまだまだへたくそだったなあ。あんなふうに馬が走っていくかっこいい映画を撮りたいなあ。そんなことを思っただけで、そのほかにもすてきな映画をいっぱい見てほしい。私からのお願いです。









青森県・芸術文化でひらくあおもり未来づくり事業  
「あおもり映像フェスティバル『こども映画教室@ひろさき2014』」

主催 / あおもり映像芸術振興プロジェクト実行委員会

特別講師 / 横浜聡子

プロデューサー / 土肥 悦子

会長 / 三上 雅通

スタッフ / 廣瀬ともみ

金田美穂

西原考至

太田尚子

奥定正掌

及川典子

船木統紀子

菅野寛高

奈良俊雄

吉谷拓海

加藤大地

小杉在良

三上英機

森田亜岐子

イラスト / 工藤みどり

協力 / こども映画教室

NPO法人 harappa

弘前フィルムコミッション

弘前市公園緑地課

青森県立弘前中央高等学校

後援 / 青森県教育委員会



